

循環器内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	中性脂肪蓄積心筋血管症に対する冠動脈インターベンションに関する治療成績
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 羽生田 正行
担当科等	循環器内科
研究責任者	講師 中野 雄介
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)患者において、定量的冠動脈解析(QCA: quantitative coronary angiography analysis)によりステント治療後の新生内膜増殖の指標であるステント内の晩期血管径損失、再狭窄率を評価します。併せて、血管内イメージング、臨床転機も評価します。
対象となる患者さん	2010年～2018年に当院で脂肪酸心筋シンチグラフィおよび経皮的冠動脈ステント留置術を施行した患者さんのうち、冠動脈造影による再検査がなされている患者さんを対象とします。
研究の方法	2010年～2018年に当院で脂肪酸心筋シンチグラフィおよび経皮的冠動脈ステント留置術を施行した患者さんのうち、冠動脈造影による再検査がなされている方を対象とします。TGCV診断基準に合致した症例のうち、第2世代以降の薬剤溶出性ステントを使用した症例をTGCV群、糖尿病を有するがTGCVの基準を満たさない症例を非TGCV群として、ステントの定量的冠動脈造影解析(QCA)を行い、後ろ向きに経皮的冠動脈ステント留置術(PCI)の治療成績を検討します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2023年11月30日
研究に用いる試料・情報	試料：なし 情報：診療情報、定量的冠動脈解析結果
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。

場合	
その他	特記すべき事項なし
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部 循環器科学講座 担当者：講師 中野 雄介 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 23490)